



◆当面する重点作業

1. 高温乾燥が続く場合は、定期的にかん水を行う。降雨が多く滞水する場合は排水を行う。
2. 炭そ病の発生が見られた場合(病斑部は少しへこむ)は見つけ次第埋め、2次感染を減らす。

3. 長野県より東北信地域に「果樹シンクイムシ類の多発の恐れあり」と発表された。

モモシンクイガは、第1世代成虫の飛来は8月上旬がピークで、以降も連続して飛来し、幼虫の発生も連続するため、注意が必要。

また、スモモヒメシンクイは、第2世代成虫の飛来のピークとなる8月上旬以降は第3世代まで比較的連続して発生しやすいため、9月中下旬頃まで注意が必要。

薬剤防除は防除間隔や散布ムラに注意すると共に、被害果は速やかに適切な処分も重要。

4. ハダニの発生が散見されるので注意する。
5. 台風の被害を軽減するため、支柱等しっかり固定をして置く。

◆第13回薬剤散布について

1. 散布時期：9月3日(水)～7日(日)

収穫中の品種は下記薬剤に限って、散布後24時間経過すれば収穫可能。

2. 調合量：水1000ℓ当り ※混用順に記載 **散布日** 月 日

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10mℓ	—	—
ベルコートフロアブル	66mℓ	斑点落葉病・黒星病・すす斑病・すす点病・褐斑病	前日
(®バリアード顆粒水和剤)	50g	シンクイムシ類	前日

3. 散布量：10a当り⇒5000ℓ以上

4. 散布上の留意事項

①果面の汚れ軽減のため、通常の展着剤に代えて特殊展着剤ササラ3,000倍(水1000ℓ当り33mℓ)を使用しても良い。

②ベルコートフロアブルに代えて、ベルコート水和剤1,000倍(水1000ℓ当り100g・収穫前日まで)を使用してもよい。

③スモモヒメシンクイの発生が見られる園は、バリアード顆粒水和剤2,000倍(水1000ℓ当り50g)を加用散布する。

④炭そ病の発生が心配される場合は、ベルコートフロアブルに代えて、オーソサイド水和剤800倍(水1000ℓ当り125g・収穫前日まで)を加用散布する。ただし、年間使用回数6回以内を超えないよう注意する。

⑤ハダニの発生が見られる園は、果樹技術員に相談する。

◆シナノドルチェ収穫及び出荷目揃い会開催について

下記日程で開催しますので最寄りの会場に出席下さい。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月 5日	金	午前11:00	西部流通センター	徳武
			若穂果実流通センター	寺澤

※以外の地区は、果樹技術員まで直接相談下さい。

◆紅玉収穫及び出荷目揃い会開催について

下記日程で開催しますので最寄りの会場に出席下さい。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月16日	火	午前10:30	真島フルーツセンター	根津
		午前11:00	西部流通センター	徳武
		午前11:30	若穂果実流通センター	寺澤

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

1. 対策時期：継続して月に1回程度
2. 使用資材：

資材名	倍率	1000l当り使用量
ストピットⅡ	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。
ストピットⅡは、白くなるので収穫前の使用は控える。

◆心かび果(心腐れ果)対策について

シナノスイートは心かび病の発生が多い。収穫前での対策として、樹上での選果・除去が必要となる。シナノスイートは9月初旬頃からを目安に実施する。大玉の果実を中心に着色が著しく進んでいる果実・地色の黄化が早い果実は、樹上で除去する。

◆紅玉の着色管理について

1. 紅玉は、着色が良いため、跡が残しやすい。葉つみ・玉まわしを徹底し着色向上に努める。
2. 日焼け防止の為に葉摘みや支柱立ては果実温が十分に上がった午後から実施する。
また、徒長枝の切りすぎや葉の摘みすぎに注意する。極端に強い葉つみは日焼けの発生や着色を不鮮明にし、さらに来年の花芽形成も悪くするので注意する。
※葉摘みの程度：弱く：2～3枚、普通：5～6枚、強く：10枚以上